

(4) 前年度の学校評価

ア 自己評価結果等

本年度の重点目標		★カリキュラムマネジメント(授業改善) 社会に開かれた教育課程・キャリア教育・ESD活動・社会的資源の活用・食育の推進 ★スクールマネジメント(学校力の向上) 学校事故の未然防止と緊急対応・いじめ防止・個人情報管理・関係機関との連携体制・業務改善、多忙化解消 ★スタッフマネジメント(教師力の向上) PDCAに基づく実践力・人権に配慮した教育実践・ICT活用、構造化、ABA・保護者との合意形成		
項目	担当	重点目標	具体的方策	評価結果及び今後の課題(年度末)
授業改善	小	目指す子ども像を実現するための授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関する課題のリスト化、取り組む課題の順位付けを日常生活の指導、生活単元学習・遊びの指導、自立活動の3グループで取り組む。その後、課題リストの共有と情報交換を部全体で実施する。 ・各グループで授業研究を実施する。 ・部全体で授業研究の経過報告、課題の改善策の共有をし、それらを踏まえて各グループで年間指導計画へ反映させていく。 ・根拠となる知識や技能に関する研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の指導(以下日生)、生活単元学習(以下生単)、自立活動(以下自活)の3チームに分かれて研究を進めてきた。授業改善を目指し、低学年、高学年から日生、生単は授業事例、自活は個別事例をそれぞれ1事例ずつ取り上げて、授業研究を実施した。具体的には、各事例の授業や指導の現状と、現在の課題、困っていることなどを授業実践シートにまとめた。その後、授業動画と授業実践シートを見ながら話し合い、改善した。すべてのチームで改善を実感することができた。また、それらの結果を踏まえて、年間指導計画へ反映させることもできた。これらの結果を次年度の指導に活かしていきたいと考えている。
	中	生活単元学習を中心とする指導計画・指導内容の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の整理・検討を行う。 ・生活単元学習の授業研究を実施する。 ・他教科・領域の年間指導計画等との比較や整理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活単元学習を取り上げ、学年単位で研究を進めた。年間指導計画の見直しや整理、校外学習を中心とした指導内容の再検討を行うことができた。 ・他教科との関連性についても整理することができた。 ・教育課程の検討を通して、学年間の指導内容の連続性や教材含む指導方法の引継ぎについて検討し改善することができた。
	高	職業科を教育課程に位置づけキャリア教育の一層の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の指導と作業学習の指導を包括的にとらえ、横断的な学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の充実を意識した実習(校内、アセスメント、産業現場等)は、定着してきている。 ・生徒一人一人の特性と卒業後のIADLに着目し、各教科と作業学習において、より具体的な学習内容を設定することが必要である。 ・校外作業学習が実用的で発展的な学習機会となるよう、関係機関に対して更なる調整と提案を行う。
	教務	学習指導案の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・次の授業につながる評価という視点から、学習目標と学習評価の立て方や観点等について検討する。 ・校内研究等と絡め、研究授業の立案から評価を通して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作成した案を書き方ガイドとして提案した。会議でいただいた意見をもとに、合理的な配慮の部分など一部修正し、部会を通して職員の上承を得た。来年度から活用を始めた。
	情報図書	学校図書の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・新図書システムの整備、運用を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の貸出システムを活用できるようになった。 ・夏季休業中に、分野別に書架の分類、整理を行うことができた。 ・りぶらと連携して移動図書館の導入を行い、蔵書の補完を行う。 ・図書貸出処理用PCの更新が必要である。
学校力の向上	総務	業務のマニュアル化を推進し、教育活動の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・みあいの日(鑑賞会)の団体を検討し、主な演目(内容)3種類×3団体くらいのローテーションを設定する。 ・学校だよりの年間計画を3パターン程度作り、ローテーションできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に見せたい鑑賞内容として「劇」「和太鼓」「演奏、大道芸」の3種目に絞り、過去の鑑賞会での公演団体を内容別に分類した。それぞれが3団体になるように新規の団体も候補に加え、次年度から9年間のローテーションを組んだ。また、各団体の連絡先等の資料をまとめ、係の業務がスムーズにできるようにした。 ・学校だよりの趣旨等を5月号に編集後記として掲載した。今年度の学校だよりの掲載内容を執筆担当者別に一覧表にまとめ、内容及び執筆者に偏りがないよう見直した。学校全体の様子をよりよく伝えられるように、3年間のローテーション内容を吟味した。
	教務	事務処理の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・教務のマニュアルを見直す。各業務の課題を出し、負担の偏りや軽減などを検討する。 ・会議についても、内容を精選するとともに回覧やメソフィア等を活用し、時間の短縮や回数の精選につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度実施した業務から順に取組とマニュアルを比較して変更点や改善点を検討した。いくつかの係で、変更点等を見つけて更新できた。ただ、まだ検討できていない係もあるため、引き続き行っていきたい。部会については、昨年度の記録をもとに課題検討の時期や必要性を見直し、部会を5回削減した。
	情報図書	個人情報管理及び情報モラルの意識を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・情報管理に関する文書や管理方法の見直しを図る。 ・情報モラルに関する現職研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に配布予定の文書「児童生徒の個人情報の収集、利用に関するお願い」及びアンケート用紙の見直しを図った。個人情報の内容や利用範囲を明確にするとともに、保護者の意向がはっきり分かるアンケートの形式に作り替えた。現在校務部会で検討中の段階だが、今年度中にまとめ上げたい。
	研修	各部でめざす子ども像から考えることを課題に研究を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・各部ごとで日頃の課題や関心事を共有し研究を進める。 ・各期にアンケートを実施し、研究内容や校内研究の機会が有意義に進められたか調査する。 ・研究を進めるにあたり、必要な研修の機会や専門性の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年に3回、研究に対するアンケートを実施した。研究内容の共通理解、研究を通じた学び、課題への対応など概ね肯定的な御意見のもと研究を進められており、校内研究の時間や取組が各部にとって有意義なものとなっている。一方で研究としての形や着地点が曖昧になっているとの指摘もあり、研究の方向性を明示し、確認し続けていくことが、研究を進めていく上での課題として残る。 研究推進委員会では、各部の取組の進捗状況やアンケート結果を報告する機会をもち、各部の研究の成果や改善点を確認しながら進められた。

	研修	地域の学校間と連携した研修作り	<ul style="list-style-type: none"> 地域の学校間と連携し互いに学び合う研修を行う。 本校職員が研修の講座を担当し、特別支援教育に関する知識・情報等を提供する機会を設定することで、地域のセンター的機能を果たす。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度のみあいワークショップは、12市1町と多くの地域から200名程度の参加があった。研修会の運営については校務単位で担当を割り振り、全校体制で進めることができた。 地域の市町との連携に関しては、次年度の研修会のもち方や計画も含め、現在検討中である。本校が地域の特別支援教育に関するセンター的機能を果たしていくためにも、単年で取り組む目標とするのではなく、研修会を重ねていく中で地域の市町や学校との連携の仕方を模索し、研修体制を形作っていききたい。
学校力の向上	指導安全	避難経路の周知を徹底し、安全に避難できる。福祉避難所としての必要物品の確保、運営方法の理解。	<ul style="list-style-type: none"> 4月の現職研修にて避難経路の確認を行う。児童生徒は第1回避難訓練において職員の誘導で避難経路を覚えると同時に事後指導にて確認をする。 災害に応じた避難の仕方を理解する。 岡崎市役所と連絡を密にし、具体的な運営方法を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 11月に福祉避難所関係者会議に参加した。岡崎市から改定された福祉避難所設置・運営マニュアルをいただき、内容についての検討ができた。今後は、このマニュアルに従って準備を進める予定である。
	進路支援	関係機関と連携した進路体制づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関、保護者への情報発信ツールの作成、整理を行う。 校内外や企業等で実施する研修会や面談会等で啓発活動を行う。 校内用に企業や関係機関の資料を整理し、全職員へ発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者向けには、進路掲示板を月1回更新し、進路に関わる福祉サービスの内容をまとめたものを配布できた。また、必要に応じて臨時的個別懇談を開き、情報を提供をした。 企業向けには、学校公開を行い全14社新規7社へ本校の概要や生徒や実習制度を紹介した。今後も多様な場面で啓発活動を行う。 校務部会ごとに進路学習の時間を設けたり、自主研修、みあいワークショップ、夏季研修の進路支援部が担当する講座では、校務部会で講座内容を考え、全員で役割分担して研修内容となる知識を共有して進められた。
	保健体育	業務内容の見直しと改善	<ul style="list-style-type: none"> 業務内容の取捨選択をし、スリム化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 運搬や配布等、人手がかかる業務については呼びかけ、人数を集めて取り組めた。出張等で保健室が手薄になる場合、校務やメソフィアで手伝いを呼び掛けた。手伝ってくれる職員が増え、保健室の使い方を覚えてもらえるよい機会となった。 担当者と反省をまとめ、保体部で検討し次年度につなげていく。
教師力の向上	中	生活単元学習を中心とした、チームによるアプローチでの授業改善	<ul style="list-style-type: none"> チームによるアプローチについての共通理解を図る。 生活単元学習での授業研究を実施し、改善を図る。 授業や生徒理解に向けた根拠となる知識や技能に関する研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年単位で意見交換を重ね、指導目標に即した授業の展開方法や教材教具等について、密に検討を行うことができた。 単元の検討を行うことで、一つ一つの授業における指導内容や指導目標、その手だてについての共通理解が図られ授業改善につながった。
	高	的確なアセスメントにより計画を立案し、実践を的確に評価して改善を図るPDCAサイクルに基づく実践力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> 校外作業学習を職業科と位置づけ、多くの生徒が幅広い業種の仕事を体験的に学習する。 作業学習、職業科、家庭科及び産業現場等における実習を通して働くことに必要な知識・技能・態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業学習評価表を活用して作成した生徒の自己評価と教師による他者評価については、PDCAサイクルに基づいた検討と改善が不十分であった。 作業学習評価表を集約して作成した各作業学習のアセスメントシートについて、各教科等においても横断的に活用できるよう、内容や活用方法等を変更する。
	自立活動	アセスメントに基づく課題学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> 7つのキーポイントの意義や目的、チェック方法を周知する。 小、中、高と継続したアセスメントを実施する。 7つのキーポイントの項目に応じた指導例を収集する。 具体的指導方法について紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> J☆sKepに基づく「個別の課題学習」の指導例を収集し、教材・教具・書籍展にて紹介ができた。2学期にJ☆sKepの研修会を行い、アセスメントの意義や目的、チェック方法について周知を図ることができた。研修会においてもJ☆sKepに基づく「個別の課題学習」の指導例を紹介できた。3学期も引き続き指導例を収集し、指導の参考となるよう情報の提供につなげていきたい。
	指導安全	いじめの未然防止、早期発見、再発防止に努める学校作り	<ul style="list-style-type: none"> 全職員に対しいじめ防止基本方針の共通理解と意識の向上。 児童生徒の兆候や訴えに迅速に対応する組織作り。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月に第1回のアンケートを実施した。気になることは、聞き取りを行い、丁寧に対応した。また、結果を集約し、第1回いじめ不登校対策委員会を実施した。重大事案は発生していない。 12月に第2回アンケートを実施した。全ての事案について聞き取りを行った。今のところ重大な事案は起きていない。今後第2回いじめ不登校対策委員会を開催予定である。
	支援	理・美容支援の充実	地域の理・美容店の利用が困難な児童生徒が学校で理髪を体験することで地域の理・美容店の利用につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> 第1回理容・美容支援を9月に実施した。事後の保護者アンケートでは、理容・美容支援を体験してよかったとの意見が多数あり、理髪をした店舗の利用についても前向きな意見が多く寄せられた。校務部会において第1回の反省を行い、第2回の理容・美容支援では、より地域への利用につなげられるように、大きな地図を用意し、店舗の場所を示すように準備を進めている。第2回においても事後に保護者アンケートを実施し、次年度につなげていくと同時に、実際に地域の店舗につながった児童生徒の情報を発信できるようにしていきたい。
	進路支援	進路指導における職員の専門知識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 現職研修及び、自主研修会を実施する。 進路指導についてのアンケートを実施し、職員や保護者のニーズを聞きとる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主研修「校内実習について」、夏季自主研修「将来を見据えた進路支援に向けて」の実施をした。 懇談前に高等部担任へ進路支援に関するアンケートを集約し、福祉事業所の一覧表、相談支援事業所の対象区域の資料、福祉サービスの説明を配布した。また、高等部の一部の学年学級の職員には、一人一人の進路支援の方法や方向をまとめ提示し、各学級の学級または個別懇談で活用できた。
	保健体育	緊急時対応の理解と実践力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 心肺蘇生法やエピペン使用の講習会の実施 情報の伝達及び共有 	<ul style="list-style-type: none"> 救急法講習会を通してAEDの使い方の確認、水泳での事故防止について理解が深められた。また、食物アレルギー講習会では、エピペンの使い方や児童生徒の顔・アレルギーについての情報の共有が図れた。 岡崎市のHPなどからインフルエンザの発生状況を確認し、必要に応じてメソフィア等で周知をした。健康情報をサーバーに入れ、変更毎に更新した。また、発作時の対応や嘔吐物処理方法についての動画を保健体育部で作成し、閲覧できるようにすることで実践力や意識向上に努めた。